

WEST☐ Generate Collection

L4: Entry 37 of 50

File: DWPI

Oct 24, 1995

DERWENT-ACC-NO: 1996-014698

DERWENT-WEEK: 199602

COPYRIGHT 2003 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Cover for fortune telling letters - attaches sticker which runs downwards
with bag installed inside container

PATENT-ASSIGNEE:

ASSIGNEE

CODE

DAINIPPON PRINTING CO LTD

NIPQ

PRIORITY-DATA: 1994JP-0089223 (April 5, 1994)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 07277322 A	October 24, 1995		005	B65D005/54

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-NO	DESCRIPTOR
JP 07277322A	April 5, 1994	1994JP-0089223	

INT-CL (IPC): B65 D 5/54; B65 D 77/38

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 07277322A

BASIC-ABSTRACT:

The cover includes and inner bag (7) with a vertical inside cut fixed to a carton from the inner side. A sticker (8) runs vertically downwards and it attaches the bag to the carton. A zipper (6) is horizontally installed through a couple of side cylindrical panels (3) and a front cylindrical panel (1). The zipper and the sticker are installed perpendicular to each other. A tear beginning edge (13) is installed at the edge of the zipper and is connected to the sticker.

ADVANTAGE - Facilitates thorough opening of letter.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/5

TITLE-TERMS: COVER FORTUNE LETTER ATTACH STICKER RUN DOWN BAG INSTALLATION CONTAINER

DERWENT-CLASS: Q32 Q34

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1996-012812

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-277322

(43) 公開日 平成7年(1995)10月24日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 5/54 77/38	3 0 1 M			

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-89223

(22) 出願日 平成6年(1994)4月5日

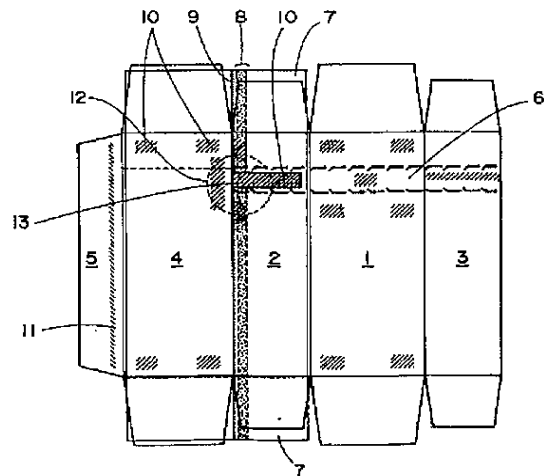
(71) 出願人 000002897
大日本印刷株式会社
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
(72) 発明者 山勢 和子
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内
(72) 発明者 飯島 淳
東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
大日本印刷株式会社内
(74) 代理人 弁理士 小西 淳美

(54) 【発明の名称】 易開封性縦型バッグインカートン

(57) 【要約】

【目的】 カートンと内袋を容易に同時開封できる易開封性縦型バッグインカートンを提供する。

【構成】 巻取り状積層フィルムの両側端同士を合掌シールにより筒貼りして形成された内袋7をカートンの内面に拡がるように接着してなる縦型バッグインカートンにおいて、引き裂きジッパー6がカートンの3面の胴部縦パネル1～3を通して水平方向に設けられており、該ジッパー6と前記筒貼り方向が直交し、該ジッパー6の引き裂き開始端13が前記内袋の筒貼り部8に接着されていることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 巻取り状積層フィルムの両側端同士を合掌シールにより筒貼りして形成された内袋をカートンの内面に拡がるように接着してなる縦型バッグインカートンにおいて、引き裂きジッパーが前記カートンの折線を介して接続された3面の胴部縦パネルを通して水平方向に設けられ、該ジッパーの引き裂き方向と前記内袋の筒貼り方向が直交し、該ジッパーの引き裂き開始部が、前記内袋の合掌シール部に接着されていることを特徴とする易開封性縦型バッグインカートン。

【請求項2】 前記積層フィルムにおいて、前記筒貼り方向と直交するように易引き裂き性が賦与され、前記両側端縁に沿って傷痕が設けられていることを特徴とする請求項1記載の易開封性縦型バッグインカートン。

【請求項3】 前記引き裂き開始部において、前記ジッパーの引き裂き方向と前記筒貼り方向とが直交することを特徴とする請求項1、請求項2記載の易開封性縦型バッグインカートン。

【請求項4】 前記引き裂き開始部において、前記ジッパーの引き裂き方向と前記筒貼り方向とが斜交することを特徴とする請求項1、請求項2記載の易開封性縦型バッグインカートン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、カートンと内袋を同時に、しかも容易に開封できる縦型バッグインカートンに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、縦型のバッグインカートンの胴部を水平方向に開封する場合、まずカートン胴部に水平方向に設けられているジッパーを引き裂いてカートンを開封し、次に現れた内袋の上部をハサミによるか、カッターテープによるかなんらかの方法で水平に開封する2段階方式が一般的である。外箱と内袋を同時に開封しようとする提案は、例えば実公昭58-49958号公報、特公昭62-58976に見られるが、両者とも内袋の筒貼り部において内袋基材の表裏が接着されているいわゆる封筒貼り方式が採用されたものである。さらに、実願平3-76255では、筒貼り部に合掌シールした内袋を使用した「内袋同時開封カートン」が提案されているが横型のバッグインカートンの天板部を窓状に開封するものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】縦型バッグインカートンのカートン胴部に水平方向に設けられたジッパーを水平に切り開いてカートン上部を先ず開封し、次いで現れた内袋の上部を何らかの方法で2度にわたって開封するのは煩わしく、またカートンと内袋の開封レベルが一致しないことによる使いにくさ、また外観が綺麗でないという問題がある。さらに、封筒貼り方式の内袋を使用す

るバッグインカートンでは、内袋基材の両側端の表裏を重ねてヒートシールして筒状に加工する場合に、安定した熱圧着が難しく、筒貼り強度が部分的に安定せず、内袋の密封性に信頼性を欠くという問題がある。また、外箱の開封部を引き裂く際に、その引き裂き部の裏側に接着された内袋の一部も同時に引き裂くようにしたものが多いが、このカートン開封部と内袋との接着強度の方が特に筒貼り部において内袋の引き裂き強度より弱くなり、その結果として外箱のみが開封されて、内袋が開封されないという問題も生じている。さらにまた、これまでの技術では、内袋を引き裂き易いように内袋の側縁に切り込み案内が設けられるのが一般的であるが、この位置がカートンの引き裂き位置とずれた場合は開封しにくくなるという問題もある。本発明は、前述の問題点を鑑みてなされたもので、合掌シールで筒貼りされた内袋をカートンと同時に容易に安定して開封できる易開封性縦型バッグインカートンを提供するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するためになされた本発明は、巻取り状積層フィルムの両側端同士を合掌シールにより筒貼りして形成された内袋をカートンの内面に拡がるように接着してなる縦型バッグインカートンにおいて、引き裂きジッパーが前記カートンの折線を介して接続された3面の胴部縦パネルを通して水平方向に設けられ、該ジッパーの引き裂き方向と前記内袋の筒貼り方向が直交し、該ジッパーの引き裂き開始部が、前記内袋の合掌シール部に接着され、前記積層フィルムにおいて、前記筒貼り方向と直交するように易引き裂き性が賦与され、前記両側端縁に沿って傷痕が設けられ、前記引き裂き開始部において、前記ジッパーの引き裂き方向と前記筒貼り方向とが直交あるいは斜交することを特徴とする易開封性縦型バッグインカートンを要旨とする。

【0005】

【作用】本発明によれば、カートンにあらかじめ設けられたジッパーを水平に引き裂くことにより内袋も同時に引き裂かれバッグインカートン上部を容易に安定して同時開封することができる。

【0006】

【実施例】以下図面に基づいて詳細に説明する。図1は本発明による易開封性縦型バッグインカートンの中間工程における展開図であって、カートンと内袋の位置関係を示している。まず、本発明に使用されるカートンブランクは、図1に示すように、正面胴部縦パネル1の両サイドに折線を介して側面胴部縦パネル2、3が接続され、該側面胴部縦パネル2に折線を介して裏面胴部縦パネル4、フラップ5が接続されてなるカートン胴部の上下に、さらに折り込み用フラップを設けてなるものであり、カートンブランクの前記正面と側面パネル1〜3を通して水平方向にジッパー6が設けられている。

【0007】一方において、巻取り状積層フィルムの両側端を合掌シールによって筒貼りしてフラットに折り畳まれた内袋7を前記パネル2、4の内面に貼り合わせ、次いでフラップ5と前記パネル1、3を内袋7を抱き込むように180°折り畳んで貼り合わせるることによって、内袋7がカートンブランクに包まれた状態のものが得られる。この場合にカートンと内袋7は斜線で示す接着部10によって部分的に強接着される。また、カートンフラップ5とパネル3との接着も糊代11によって同時に行われる。このようにして得られた筒状の内袋7を内貼りしたバッグインカートンを角柱状に起こすと、その水平断面は図4で示すように内袋もカートン内部に拡がった状態となる。このような状態にしてから、内袋7の底部シールとフラップ折り込み、内容物充填、内袋7のトップシールとフラップ折り込みが行われ図5(a)のような包装完了状態となる。

【0008】図1における引き裂き開始部12に示すように、ジッパー6の引き裂き開始端13は内袋7の筒貼り部8に接着部10で強接着されている。また、筒貼り部8は2枚の積層フィルムが合掌貼りして形成されており、その側端縁には傷痕9が連続して設けられており、側端縁のどこからでもフィルムが引き裂けるようになっている。さらに積層フィルムはジッパー6と同じ方向に易引き裂き性が賦与されているため、内袋を水平にジッパー6に沿って引き裂き開始部12から切り裂くことができ、すなわち同時開封が可能となる。前記引き裂き開始部12における開封状態を図2によって詳しく説明する。図2(a)はジッパー6の引き裂き開始端13を指で摘んでジッパーを引き裂き、合掌シールされた2枚の積層フィルムの筒貼り部8のシール根元部分まで引き裂いた状態を示し、内袋7はまだ開口していない。次にさらに引き裂くと図2(b)で示すように内袋2の積層フィルムの一部がフィルム切断部15で示すように筒貼り部8のシール根元で引きちぎられ、それ以降もジッパー6に沿って水平に引き裂かれ、フィルム引き裂き線14で示す幅を有した開口部16が得られる。このように3枚の胴部パネル1~3を通して同時引き裂きを行うと図5(b)に示されるようにバッグインカートンのトップ部を開口することができる。図2(a)は内袋7の一部を引きちぎる直前の状態であって、引き裂き工程の中で最も抵抗の大きい箇所である。この抵抗を少しでも和らげ、より容易に引き裂けるようにしたものが、図3で示されている。すなわち、引き裂き開始部12において、ジッパー6と筒貼り部8が斜交しているため、内袋切断部15は図2(b)とは異なり一度に引きちぎるのではなく、ジッパーの引き裂きに促って引きちぎられ、抵抗を和らげることが可能になる。図1、図3における引き裂き開始部12の粘着部10はジッパー6の幅に近い方が好ましい。またカートンと内袋7を剥離不能に強接着する接着材の使用が必要である。

【0009】図4は本発明による易開封性縦型バッグインカートンの成形胴部の水平断面模式図である。引き裂き開始部12における内袋は3重構造となっていて、内袋切断部15が筒貼り部8のシール根元と略一致していることを示している。図5は本発明による易開封性縦型バッグインカートンの開封状態を示す斜視図であって、図5(a)は開封前、図5(b)は開封後を示す。開封後は、頭部を図5(b)のように、後ろに倒した状態にすることが可能であり、テーブルウエアーとして容器ごと使用することができる。

【0010】なお、カートン上下両端部における内袋7の構造は図示されていないが、内袋7はバッグインカートン組み立て時にカートン上下部においてもカートン内部に拡がる構造となっている。

【0011】(実施例) 坪量310g/m²のコートボールを使用し、前面パネル1の寸法が150×83mm、サイドパネル2、3の幅(カートンの奥行き)52mm、ジッパーの幅18mm、ジッパーの上部切れ線と天部フラップまでの距離が20mmである図1に示すような展開図のカートンブランクを作成した。一方において、横一軸延伸ポリプロピレンフィルムを基材として、次の積層構成を有する積層巻取りフィルムを内袋用に準備した。

OPP 25μm/PE 15μm/A 17μm/PE 30μm

OPP: 横一軸延伸ポリプロピレンフィルム

PE: ポリエチレン

A 1: アルミ箔

次に、積層フィルムを幅312mmにスリットした後、両側端縁に傷痕を与える加工を行った。次に、この両側端同士を10mm幅で合掌シールして筒貼りを行って筒状とし、これをフラットに押しつぶした状態の筒状積層フィルムを流れ方向に234mmの長さにカットし、これを内袋7として、図1に示すように酢酸ビニル・アクリル共重合体からなる樹脂を主成分とした接着材を接着部10に部分コートして、カートンブランク胴部パネル2、4に貼り付け、この内袋7を抱き込むようにフラップ5、胴部パネル1、3の順に折り畳み、フラットな上下端が開放している易開封性縦型バッグインカートンを得た。最後に角柱状に起こして、上下を中空のまま封止した。なお、前記カートンブランクには図1で示す引き裂き開始部が直交型の他に、図3のような斜交型のものを使用した。こうして得られたサンプルを用いて、手による引き裂き官能テストを行った結果、直交型、斜交型いずれも容易に、安定して同時開封できた。この場合、引き裂きに要するトータルな力は略同一であるが、直交型は図2(a)の状態で引き裂き抵抗が最大となった。これに対し斜交型のものではかかる抵抗値のピークは見られなかった。なお、内袋切断部15は斜交型の方が綺麗に切断された。引き裂き幅は、引き裂き開始部12に

5

おける接着部10の幅によって殆ど決まり、図2に描いたような綺麗な引き裂きを行おうとするならば、ジッパー6の幅と接着部10の幅が少なくとも引き裂き開始部12で略一致していることが必要である。

【0012】本発明に使用される外箱用板紙は、通常のコートボールが好ましいが他の板紙でも使用は可能である。カートンblankの坪量は外箱のサイズや用途に応じて250〜400 g/m²の中から適宜選んで使用することができる。カートンと内袋の接着剤には強接着を示すものであればなにを用いてもよいが、前述の酢酸ビニル・アクリル共重合体が好ましい。また、カートンblankへの接着材の部分コートにこれまで周知のいかなる方式を用いてもよいが、ゴム凸版印刷方式が好適に使用できる。

【0013】

【発明の効果】本発明は、従来2段階に開封しなければならなかった縦型のバッグインカートンを1回の開封でカートンと内袋とを同時に、安定して、しかも綺麗に開封することができるので、菓子、スナック類等、中でもスティック状の縦長の商品の包装容器として好ましく、いかなる場所でもテーブルウェアを兼ねた効果的な利用を可能とするものである。

【図面の簡単な説明】

6

【図1】 易開封性縦型バッグインカートン展開図

【図2】 引き裂き開始状態図

【図3】 斜交するジッパーによる引き裂き開始部

【図4】 易開封性縦型バッグインカートン水平断面図

【図5】 易開封性縦型バッグインカートン斜視図

(a) 開封前

(b) 開封後

【符号の説明】

1 カートンblank正面胴部パネル

2、3 カートンblank側面胴部パネル

4 カートンblank裏面胴部パネル

5 カートンblank胴部フラップ

6 ジッパー

7 内袋

8 筒貼り部

9 傷痕

10 接着部

11 カートンblank糊代

12 引き裂き開始部

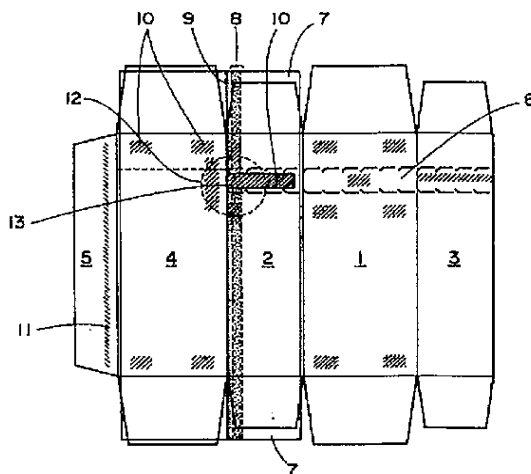
13 ジッパーの引き裂き開始端

14 フィルム引き裂き線

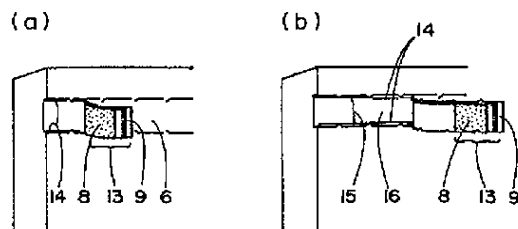
15 内袋切断部

16 内袋開口部

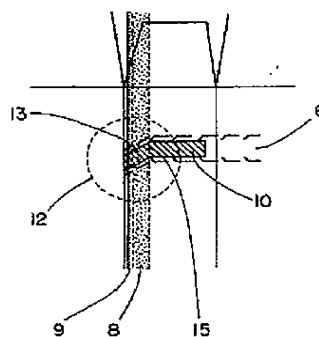
【図1】



【図2】



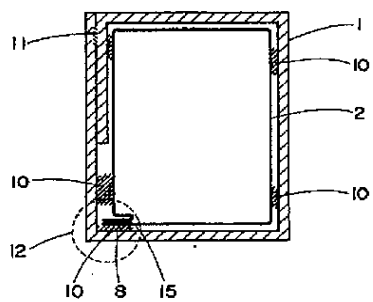
【図3】



(5)

特開平7-277322

【図4】



【図5】

